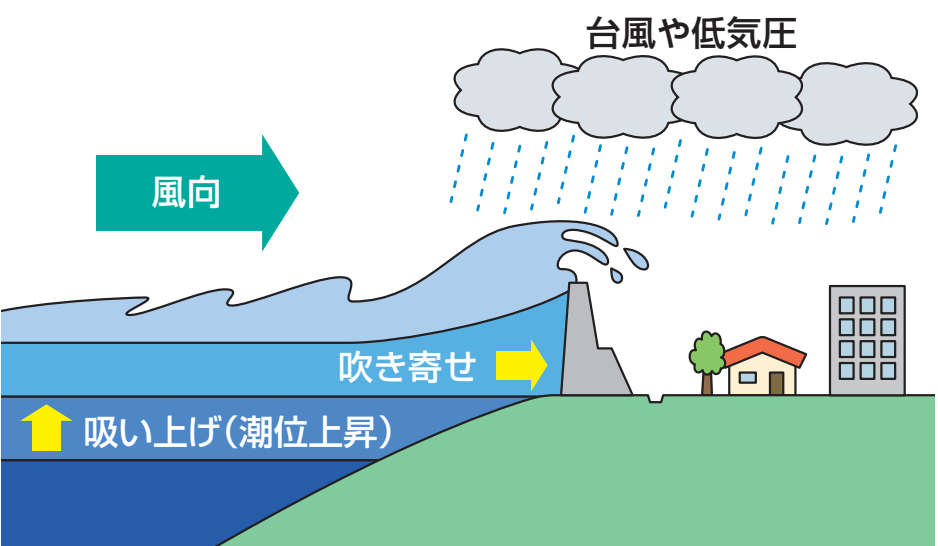


豊前豊後沿岸高潮浸水想定区域
福岡県公表(令和元年12月27日) ※市内の想定最大浸水区域

高潮浸水想定区域は、水防法に基づき高潮による浸水が想定される範囲、浸水深を表示したものです。高潮を引き起こす台風の中心気圧は、全国でこれまでの最大規模であった「室戸台風(昭和9年)」が想定されております。また、これよりも大きな高潮が発生しないというのではなく、想定浸水深より深くなったり、想定浸水区域外でも浸水したりすることもあります。

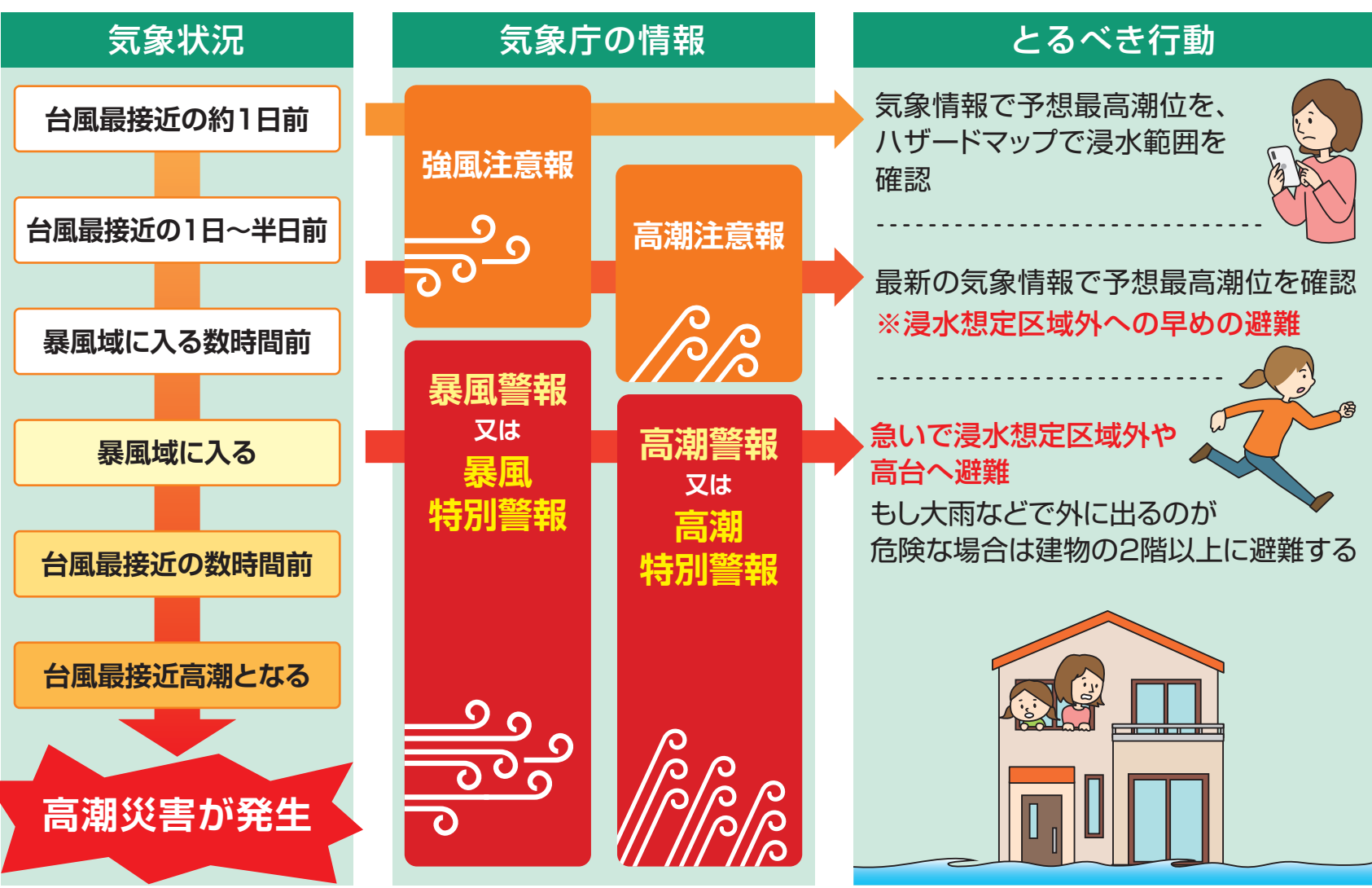


高潮が発生する主な要因

- ① 台風の接近
 - ② 海岸部からの吹き寄せ
 - ③ 潮位の上昇
- ※潮位の上昇については潮汐が大きく関係します。満潮の時間帯は潮位が高くなり、これに大潮の時期が重なるとさらに高潮による被害が大きくなるおそれがあります。気象情報等にご注意ください。

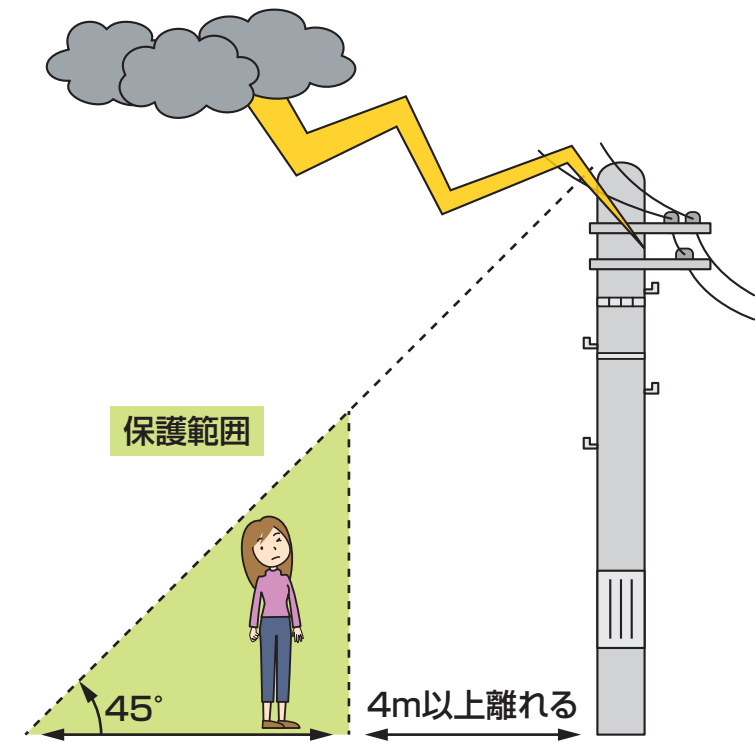
満潮の時間と重なると潮位がさらに上昇し、被害が大きくなります。

高潮災害への備え



雷被害について

雷は、グランドなどの開けた場所や、山頂や尾根などの高いところなどでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難して下さい。鉄筋コンクリート造の建築物、自動車などは比較的安全な空間です。近くに安全な空間が無い場合は、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から4m以上離れたところ(保護範囲)に退避します。高い木の近くは危険です。姿勢を低くして、持ち物は体より高く突き出さないようにします。雷の活動が止み、20分以上経過してから安全な空間へ移動します。

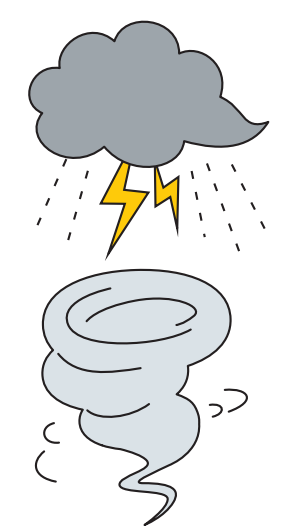


竜巻被害について

竜巻は、発達した積乱雲に伴う強い上昇気流によって発生する激しい渦巻きです。台風などの影響で南から暖かい空気が流れ込んだり、上空に冷たい空気が入ってきて、地上と上空の気温差が大きくなった時に多く発生しています。

竜巻による被害の特徴は?

- ① 短時間で狭い範囲に集中して甚大な被害をもたらす。
- ① 被害は数分～数十分で、長さ数km～数十km・幅数十～数百mの狭い範囲に集中する。
- ① 移動スピードが非常に速く、建物が倒れたり、車がひっくり返ることがある。
- ① 巻き上げられた飛散物が猛スピードで飛んでくる。
- ① 建物の中でも、飛んできたものが窓ガラスを割ったり、壁に刺さったりする。



- 竜巻が発生するときの異常現象
- 次のような場合、竜巻の接近に注意しましょう!
 - 急に暗くなる
 - 飛散物が舞い上がる
 - ヒョウが降る
 - 耳に異常、気圧の変化を感じる
 - うず巻き状の雲の発生
 - 「ゴー」と異常な音が鳴る

竜巻からの安全確保

『竜巻注意情報』が発表された場合や積乱雲とその兆しを感じたら、身の安全を確保しましょう。

- 1 屋内では
 - 雨戸やシャッター、窓やカーテンを閉め、窓のない部屋に移動する。
 - 丈夫な机やテーブルの下に入るなど、身を小さくして頭を守る。
 - 大きなガラス窓の下や周囲は大変危険! 窓ガラスから離れておく。
- 2 屋外では
 - 近くの頑丈な建物に避難するか丈夫な構造物の物陰に入って、身を小さくしておく。
 - 物置や車庫、プレハブ(仮設建築物)の中は危険ですので避難場所にはしない。
 - 周辺に身を守る建物がない場合は、水路など頑丈な所で身を伏せて両腕で頭や首を守る。
- 3 普段から心がけておくこと
 - 竜巻注意情報等の情報の入手手段を調べておきましょう。
 - 屋内外の避難場所・避難方法を考えておきましょう。
 - ガラスの破砕防止対策(飛散防止フィルムを貼る等)も有効です。
 - 加入している保険が竜巻による被害を対象としているか、確認してみましょう。